

特集

土木を描く

Public Works in Art

特集担当主査：高森 真紀子

特集企画担当：榎本 碧、菊原 紀子、二井 昭佳、山本 礼子

土木は、人の心に何を残すことができるだろう。

土木技術者として、自分の仕事によつて何を伝えたいか、と考えたことがあるだろうか。日々の対応に忙殺され、そこまでの思いを持ち続けることはなかなか難しい。

一方、描き手は、伝えることが仕事である。つまり土木を描いた作品には、土木を通じて、または土木を物語のエッセンスとして、伝えたいことがあったということである。

本特集では、土木を描いた映画監督、漫画家、イラストレーター、写真家たちに問い掛けた。何故土木を描くのか。土木は何を伝えられるのか。描き手としてのこだわりや技術はどこにあるのか。また、土木が描かれた絵画を愛する研究者たちに、その魅力と楽しみ方を聞いた。

さらに、思いが高じてドキュメンタリー映画を作るに至った土木技術者には、人の心に深く残る土木の仕事について語ってもらった。

各記事に共通して、時に描き手は技術者よりも丁寧な、緻密に対象を観察していると感じさせられる。そのまな

ざしには深い愛情がある。そしてプロの技術で、土木の価値を世に表現してくれている。土木技術者にとって、これ以上ない心強いサポーターである。

探してみればみるほど、土木を描いた作品は世の中にあふれている。つまり、世界中にサポーターがいるようなものだ。そう思うと、自分も土木技術者の一人として、描くに値するようなものを世に送り出そう、という気持ちになる。

本特集が、読者の心に残る作品を見つける機会になるとうれしい。きっと、また明日から頑張るためのエネルギーをもらえるだろう。

図版(左上から)：青函連絡船メモリアルシップ「八甲田丸」(撮影：高森真紀子)／空の大怪獣ラドン(©TOHO CO.,LTD.)／前田建設ファンタジー営業部(©前田建設／Team F)／ダイナミック企画・東映アニメーション)／大成建設シリーズ広告ポスター「ボラス海峡トンネル篇」(画像提供：大成建設(株))／南禅寺水路閣(撮影：田中尚人)／みちのみちのり(画像提供：映画「みちのみちのり」製作委員会)／江ノ電・鎌倉高校前付近踏切(画像素材：PIXTA)／角島大橋(撮影：オーシマ・スタジオ)／アルジャントウイユの鉄道橋(クロード・モネ) (パブリックドメイン)／シン・ゴジラ絵コンテ(画像提供：樋口真嗣)／3月のライオン(©羽海野チカ／白泉社)／ドボジョ!(©松本小夢／講談社)／アフガンに命の水を(画像提供：ベシャワール会)／青函トンネル下絵(土木学会誌2021年12月号) (画像提供：モリナガ・ヨウ)／宇宙兄弟(©講談社)／気仙沼大島大橋(画像提供：大日本コンサルタント(株))／泡吹地トンネル建設現場・山崎エリナ写真集『トンネル誕生』より(画像提供：山崎エリナ)

